

12月17日中部胆管癌の診断で幽門輪温存膵頭十二指腸切除術, Child 変法を行った。腫瘍は中部胆管を主座に上部胆管, 下部胆管まで存在。また, 膵臓浸潤, 十二指腸浸潤, 門脈浸潤を認めた。

術後病理組織学的に diffuse large B cell lymphoma と診断され, 全身検索を行ったが, 他の部位に病変を認めず, 胆管原発の悪性リンパ腫と診断された。

11 輸入脚閉塞を来した2例

佐藤 友威・川口 英弘・高橋 聡*
大日方一夫*・篠川 主*・鰐淵 勉*
佐藤 巖*

巻町国民健康保険病院外科
南部郷総合病院外科*

輸入脚閉塞はビルロート2法胃空腸吻合術後の稀な合併症である。その2例を経験した。

症例1は69歳の女性。23年前に胃切除の既往あり。腸閉塞症を疑い治療したが改善せず。胃内視鏡, CT上胃癌による輸入脚閉塞の診断であった。全身状態不良で緩和医療のみ施行した。

症例2は49歳の男性。11年前に胃切除の既往あり。急性膵炎を疑い治療するも改善せず。CT, 胃内視鏡より輸入脚閉塞の診断で緊急手術施行。原因は内ヘルニアで, 整復後, ブラウン吻合を施行した。輸入脚閉塞の診断には既往歴の聴取とCTなどの画像診断が重要で, 胃癌の除外のため胃内視鏡も施行すべきであると思われた。

12 虫垂の嵌頓した大腿ヘルニアの1例

高橋 聡・大日方一夫・篠川 主
鰐淵 勉・佐藤 巖

南部郷総合病院外科

今回我々は, 虫垂の嵌頓した大腿ヘルニアを1例経験した。

症例は74歳女性。2001年10月下旬より右大腿部に腫瘤が出現し, 疼痛, 発熱を伴い11月5日当科初診。CTで大腿ヘルニア嵌頓と診断, 緊急手術を行った。

大腿部の腫瘤は, ヘルニア嚢周囲に形成された膿瘍が主体, ヘルニア内容は虫垂であった。同一創で虫垂切除術を施行し, McVay法で鼠径管後壁の補強を行った。

虫垂の嵌頓した大腿ヘルニアに特徴的な所見としては, 全例右側発症, 特に虫垂の単独嵌頓症例ではヘルニア嚢の大きさが小さい事, 腸閉塞症状を認めないことがあげられる。

ヘルニア嚢の大きさ, 臨床症状等で大腿ヘルニアの所見として典型的でない症例では虫垂の嵌頓の可能性を考慮する必要があると考えた。

13 Functional end to end anastomosis が先進部となった腸重積症の1例

須田 和敬・田中 典生・野村 達也
小山俊太郎・武田 信夫・下田 聡

県立新発田病院外科

小腸部分切除術後, 器械吻合部が先進部となり腸重積症を発症した一例を経験したので報告する。

症例は91歳男性。横行結腸癌にて, 4年前に横行結腸および空腸部分切除術を施行された。腹痛, 嘔吐を主訴に当院内科受診し, 腹部CTで腸重積症と診断され当科紹介, 同日緊急手術を施行。器械吻合部を先進部とする腸管の重積を認め, 小腸部分切除術を行った。術後経過は良好であった。

成人の腸重積症は稀で, 腫瘍や憩室などを先進部として発症する。器械吻合は容易かつ安全ではあるが, 吻合部の形状によっては本症例のような稀な合併症の可能性もあり, 注意が必要である。

14 遅発性外傷性右側横隔膜ヘルニアの1例

平野謙一郎・佐藤 友威・桑原 史郎
大谷 哲也・片柳 憲雄・山本 睦生
齊藤 英樹

新潟市民病院外科

受傷後13年を経て発症した外傷性右側横隔膜ヘルニアの一例を報告する。

症例は74才, 男性。主訴は上腹部痛。平成元年,